

短報

日本におけるソーシャル・キャピタルと健康に関する文献研究

Social Capital and Health in Japan: A Literature Study

井上智代¹⁾, 片平伸子¹⁾, 平澤則子¹⁾, 藤川あや¹⁾, 飯吉令枝¹⁾, 高林知佳子¹⁾

Chiyo Inoue, Nobuko Katahira, Noriko Hirasawa, Aya Fujikawa,

Yoshie Iiyoshi, Chikako Takabayashi

キーワード：ソーシャル・キャピタル, 健康, 文献研究

Key words: social capital, health, literature study

要旨

目的：国内外で発表されたわが国におけるソーシャル・キャピタル (Social capital, 以下 SC) と健康に関する研究動向及び論文数や対象別に分析するとともに, 研究手法や SC と健康指標に関連が認められた論文を整理する. さらに SC を測定するための調査項目の現状を構成要素に基づき明らかとし, 今後の研究の方向性を提示することを目的とする.

方法：医学中央雑誌, J-Medplus, メディカルオンライン, MEDLINE を用い「social capital」「社会関係資本」「Japan」等を検索語として検索し, 重複論文, SC を主題としない論文等を除く 54 文献を対象とした. SC と健康に関する論文の年次推移, 対象者, 研究手法, 調査項目等について分析した.

結果：わが国では 2009 年以降に SC と健康に関する研究が隆盛してきたこと, 研究対象は全国からの抽出調査, 市町村単位の調査, 高齢者が多く見受けられ, SC と健康指標と関連が認められた文献も同様な結果であった. また, 量的研究に比べ質的研究が稀少であり, 研究者によって SC を測定するため調査項目は多様であった.

結論：今後は様々な対象の研究が必要であるとともに, SC 概念の整理を行い, 個人・集団の両方の視点で様々な対象に測定が可能な尺度が開発され, 研究が蓄積されることが求められる.

I. 緒言

近年, 人々の健康に影響を及ぼす社会的要因の 1 つとしてソーシャル・キャピタル (Social capital, 以下 SC) が注目されている. 1916 年にハニファンが論文で使用して以来, 社会学などの分野で使用されてきた言葉であるが (尾島, 2011), 1990 年代に米国の政治学者 Putnam R.D. が「調整された諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる, 信頼, 規範, ネットワークといった社会組織の特徴であり, 共通の目的に向けて効果的に協調行動へと導く社会組織の特徴である (Putnam, 1993/2001)」と提唱したことが契

機となり, 「90 年代後半から海外の研究者の強い関心を集めることとなった」(岡正と田口, 2012). また, SC は人々の間の協調的な行動を促すという視点から日本語では『社会関係資本』と呼ばれている (稲葉, 2011).

糸林 (2007) は SC における「信頼」「規範」「ネットワーク」について「彼 (Putnam) のいうソーシャル・キャピタルは, つながりが生み出す資本が社会の効率性を改善するという意味であり, この 3 条件はそれを最大化するための条件である」と説明している.

2012 年 7 月には「地域保健対策の推進に関する基

2012 年 8 月 27 日受付; 2012 年 11 月 22 日受理

1) 新潟県立看護大学 Niigata College of Nursing

本的な指針」の一部が改正され、「地域に根差した信頼や社会規範、ネットワークといった社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）等を活用した住民との協働により、地域保健基盤を構築し地域住民の健康の保持増進並びに地域住民が安心して暮らせるようなまちづくりを推進する必要がある」と示された（厚生労働省，2012）。このような背景から、今後我が国においてSC醸成が進められていくことが予想され、SCを効果的に醸成する手法や、SCの意義等に関する研究が求められる。

日本におけるSCについての文献レビューは、空閑(2010)の日本におけるSC研究の文献の分析や、儘田(2010)のSCと抑うつ、心疾患、主観的健康観などの健康指標に関する文献のレビューがある。儘田は1つのデータベースで文献を探索し、和文献19件を対象にレビューした。儘田(2010)は其中で、「ほとんどの文献で健康指標との有意な関連が報告されている」、「SCの測定には信頼感、互酬性規範、参加組織数といった尺度・指標が多用されている」と分析している。このような報告からも、日本におけるSCと健康に関する研究がどのような対象やテーマで行われ、多用されていると考えられるSCの調査項目を整理し、今後の研究の方向性を検討する必要があると考える。

そこで、本研究は我が国のSCと健康に関する論文をできる限り網羅するために、複数のデータベースを用いて国内外で発表されたわが国におけるSCと健康に関する研究動向及び論文数や対象別に分析する。また、用いた研究手法やSCと健康指標に関連が認められた論文を整理する。さらにSC測定するための調査項目の現状を構成要素に基づき明らかとし、今後の研究の方向性を提示することを目的とする。

II. 方法

文献検索にはSCと健康に関する論文を網羅するため、医学中央雑誌、J-Medplus、メディカルオンラインを用いて検索した。また、海外で発表された論文の検索にはNational Center for Biotechnology Information（国立バイオテクノロジー情報センター：NCBI）によるMEDLINEを用いた。医学中央雑誌、J-Medplus、メディカルオンラインにおいては「social capital」「ソーシャルキャピタル」「社会関係資本」を検索語とし会議録を除いて検索した。MEDLINEでは「social capital」「Japan」を検索語として検索した。検索範囲は、1983年～2012年3月とした。医学中央雑誌19件、J-Medplus49件、メディカルオンライン

21件、MEDLINE36件が検索され、重複文献、SCを主題としない文献、健康に関連しない文献、日本以外を対象とした文献、抄録を除き、54文献を調査対象とした。発行年別の論文数の推移、研究対象者、研究テーマ、研究手法、健康指標との関連、調査項目について分析を行った。

1. 研究手法については、井上ら(1999)による「看護における研究」を参考に「量的・演繹的研究（以下量的研究）」、「質的・帰納的研究（以下質的研究）」に「量的研究と質的研究を組み合わせたもの」の3種類に分類した。
2. 健康日本21の基本理念（厚生省と健康・体力づくり財団，2000）を参考に、死亡、健康寿命、健康の質の向上に関連する生活習慣や健康状態を示す内容を「健康指標」と操作的に定義した。「健康指標」を測定した論文を対象者別にSCとの関連の有無を分析した。
3. 各論文においてSCを測定するために使用した調査項目を、内閣府国民生活局市民活動促進課(2002)が示した分類を参考に、「信頼」「規範」「ネットワーク」の3つ構成要素に分類し、使用状況を確認した。
4. 信憑性、妥当性を高めるため、上記の分類は共同研究者6名で行い内容を検討した。

III. 結果

1. ソーシャル・キャピタルと健康に関わる研究の動向
わが国におけるSCと健康に関わる論文は2003年を端緒とし、以降0～5件の間を推移した後2009年に急増し15件となっていた（図1）。調査対象は高齢者17件(31.5%)、市町村単位10件(18.5%)、全国からの抽出調査8件(14.8%)、労働者5件(9.3%)、国際調査4件(7.4%)、学生・生徒3件(5.6%)、PTA3件(5.6%)であった。この他、被災者、ホームレス、保健師、乳幼児を持つ母親を対象とした研究もあった。対象者数は5人～39,082人（外国人含む）であり、500人未満の研究が13件で最も多かったが、10,000人を超え

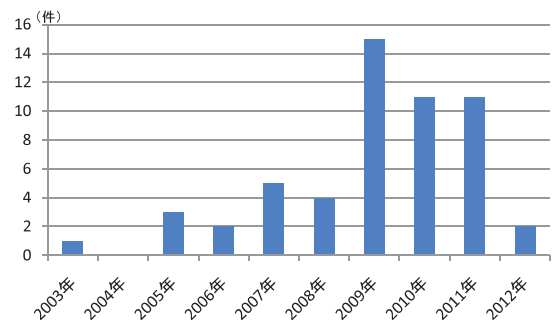


図1 ソーシャルキャピタルと健康に関する論文 (n = 54)
* 検索期間：1983年～2012年3月

表1 ソーシャル・キャピタルと健康に関連する内容の文献リスト

論文のタイトル	著者	出典	巻(号), ページ	発表年
(量的研究 49 件)				
高齢者のスポーツ選択に関する研究—所有資本との関係から—	後藤貴浩	群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編	38, 173-185	2003
ソーシャル・キャピタルと健康の関連性に関する予備的研究	藤沢由和, 浜野強, NAM Eun Woo 他	新潟医療福祉学会誌	4(2), 82-89	2005
日本の高齢者—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査 11) ソーシャル・キャピタルと健康	市田行信, 吉川郷主, 松田亮三 他	公衆衛生	69(11), 914-919	2005
認知的ソーシャルキャピタルとしての法意識・規範意識・契約観と対人信頼感の関連—東アジア価値観国際比較調査データから—	星野崇宏	行動計量学	33(1), 41-53	2006
地区単位のソーシャル・キャピタルが主観的健康感に及ぼす影響	藤澤由和, 濱野強, 小藪明生	厚生指標	54(2), 18-23	2007
豊かなソーシャル・キャピタルと縮小の危機—周防大島の高齢者の予備調査から—	生田奈美可, 大下由美, 田中マキ子 他	山口県立大学大学院論集	(8), 39-46	2007
ソーシャル・キャピタル研究における一般信頼の位置づけ	小藪明生, 濱野強, 藤沢由和	新潟医療福祉学会誌	7(1), 60-63	2007
ホームレスの食料摂取状況とソーシャル・キャピタル	武田美由紀, 石田章, 横山繁樹 他	農業市場研究	16(1), 90-95	2007
大学教職員のメンタルヘルス保持増進のための調査研究	梅景正, 大久保靖司	産業医学ジャーナル	30(5), 36-40	2007
大都市近郊の団地における高齢者の人間関係量と地域参加	安田節之	老年社会科学	28(4), 450-463	2007
保健師によるソーシャルキャピタルの地区評価	埴淵知哉, 村田陽平, 市田行信 他	日本公衆衛生雑誌	55(10), 716-723	2008
Components of social capital and socio-psychological factors that worsen the perceived health of Japanese males and females	Tsunoda H, Yoshino R, Yokoyama K.	Tohoku J Exp Med	216(2), 173-185	2008
Social capital and health and well-being in East Asia: a population-based study	Yamaoka K.	Soc Sci Med	66(4), 885-899	2008
一般的信頼と地域内住民に対する信頼の主観的健康感に対する影響の比較	福島慎太郎, 吉川郷主, 西前出 他	環境情報科学	23, 269-274	2009
地域レベルのソーシャル・キャピタル指標に関する研究	埴淵知哉, 平井寛, 近藤克則 他	厚生指標	56(1), 26-32	2009
地域住民と行政の協働と参画による地域交通計画に関する研究	猪井博登, 谷内久美子, 北川博巳 他	大阪ガスグループ福祉財団研究・調査報告集	22, 95-102	2009
高校生の子をもつ中期女性のメンタルヘルスと地域との関わり及び地域のソーシャル・キャピタルとの関連性の検討	木村美也子, 山崎喜比古, 佐藤みほ 他	社会医学研究	27(1), 35-44	2009
人間への信頼とソーシャル・キャピタル—東京都小平市における研究—	草野篤子, 瀧口眞央	白梅学園大学・短期大学紀要	(45), 13-30	2009
ソーシャルキャピタルが救急利用に与える影響(有料化の意図せざる影響について)	村山大介, 桑田耕太郎	消防技術安全所報	(46), 176-180	2009
社会的ネットワークとソーシャル・キャピタル—東京都小平市における研究—	瀧口優, 森山千賀子	白梅学園大学・短期大学紀要	(45), 31-48	2009
The different effects of vertical social capital and horizontal social capital on dental status	Aida J, Hanibuchi T, Nakade M, et al.	a multilevel analysis.Soc Sci Med	69(4), 512-518	2009
Cognition of social capital in older Japanese men and women	Aihara Y, Minai J, Kikuchi Y, et al.	J Aging Health	21(8), 1083-1097	2009
The Relationship between Regular Exercise and Social Capital among Japanese Community Residents	Arai H, Nagatsuka M, Hirai K.	International Journal of Sport and Health Science	6, 188-193	2009
Social capital and perceived health in Japan	Fujisawa Y, Hamano T, Takegawa S.	an ecological and multilevel analysis.Soc Sci Med	69(4), 500-505	2009
Social capital, income inequality and self-rated health in Chita peninsula, Japan: a multilevel analysis of older people in 25 communities	Ichida Y, Kondo K, Hirai H, et al.	Soc Sci Med	69(4), 489-499	2009
The relationship between trust in mass media and the healthcare system and individual health: evidence from the AsiaBarometer Survey	Tokuda Y, Fujii S, Jimba M, et al.	BMC Med	7, 4	2009
宮崎県山村地域住民の健康上の悩み・不安とその関連要因	藤村美穂, 佐藤宣子	民族衛生	76(5), 207-222	2010
「健康な街」の条件—場所に着目した健康行動と社会関係資本の分析	埴淵知哉, 近藤克則, 村田陽平 他	行動計量学	37(1), 53-67	2010
高齢者の地域見守りネットワークとソーシャル・キャピタル	榊田聖子, 津村智恵子, 金谷志子	高齢者虐待防止研究	6(1), 130-139	2010
母親への調査から, 新生児・未熟児訪問とこにちは赤ちゃん訪問のあり方を考える 支援ネットワークの認識の視点から	夏目恵子	保健医療科学	59(4), 400-401	2010
地区単位のソーシャル・キャピタルの測定尺度の妥当性に関する検討—エコメトリックな視点による「近隣効果尺度」の日本語版の開発—	大賀英史, 大森豊緑, 近藤高明 他	厚生指標	57(15), 32-39	2010
Social capital and mental health in Japan: a multilevel analysis	Hamano T, Fujisawa Y, Ishida Y, et al.	PLoS One	5(10), e13214	2010
Do bonding and bridging social capital have differential effects on self-rated health? A community based study in Japan.	Iwase T, Suzuki E, Fujiwara T, et al.	J Epidemiol Community Health	66(6), 557-562	2010
Multi-level, cross-sectional study of workplace social capital and smoking among Japanese employees	Suzuki E, Fujiwara T, Takao S, et al.	BMC Public Health	10, 489	2010
Does low workplace social capital have detrimental effect on workers' health?	Suzuki E, Takao S, Subramanian SV, et al.	Soc Sci Med	70(9), 1367-1372	2010
Does social capital promote physical activity? A population-based study in Japan	Ueshima K, Fujiwara T, Takao S, et al.	PLoS One	5(8), e12135	2010
Subjective health and social factors:multidimensional data analyses of cross-national survey	Yamaoka K.	Behaviormetrika	37(1), 37-54	2010
高齢者虐待に対する民生委員の認識とソーシャル・キャピタル	桂晶子	宮城大学看護学部紀要	14(1), 63-68	2011
都市部における住民主体の健康づくりグループ活動の効果—グループ参加期間との関連—	保田玲子	札幌市立大学研究論文集	5(1), 61-67	2011
Income inequality, social capital and self-rated health and dental status in older Japanese	Aida J, Kondo K, Kondo N, et al.	Soc Sci Med	73(10), 1561-1568	2011
Assessing the association between all-cause mortality and multiple aspects of individual social capital among the older Japanese	Aida J, Kondo K, Hirai H, et al.	BMC Public Health	11, 499	2011
The association between neighborhood social capital and self-reported dentate status in elderly Japanese—the Ohsaki Cohort 2006 Study	Aida J, Kuriyama S, Ohmori-Matsuda K, et al.	Community Dent Oral Epidemiol	39(3), 239-249	2011
Social capital and self-rated oral health among young people	Furuta M, Ekuni D, Takao S, et al.	Community Dent Oral Epidemiol	40(2), 97-104	2011
Contributions of social context to blood pressure: findings from a multilevel analysis of social capital and systolic blood pressure	Hamano T, Fujisawa Y, Yamasaki M, et al.	Am J Hypertens	24(6), 643-646	2011
Institutional trust in the national social security and municipal healthcare systems for the elderly and anxiety with respect to receiving elderly care in Japan: a cross-sectional study	Murayama H, Taguchi A, Ryu S, et al.	Health Promot Int	27(3), 394-404	2011
Cohort profile: the ages 2003 cohort study in Aichi, Japan	Nishi A, Kondo K, Hirai H, et al.	J Epidemiol	21(2), 151-157	2011
Does social trust at school affect students' smoking and drinking behavior in Japan?	Takakura M.	Soc Sci Med	72(2), 299-306	2011
Does walkable mean sociable? Neighborhood determinants of social capital among older adults in Japan	Hanibuchi T, Kondo K, Nakaya T, et al.	Health Place	18(2), 229-239	2012
The relationship between social capital and self-rated health in a Japanese population: a multilevel analysis	Hibino Y, Takaki J, Ogino K, et al.	Environ Health Prev Med	17(1), 44-52	2012
(質的研究 3 件)				
災害対応活動とソーシャル・キャピタル—平成16年香川県風水害—	平尾智広, 鈴江毅, 須那滋 他	地域環境保健福祉研究	8(1), 75-77	2005
行政, 医療機関, 地域住民の関与による地域住民の健康維持—ソーシャル・キャピタル概念による茨城県牛久市の事例研究を通じて—	内田亨	西武文理大学研究紀要	(12), 55-62	2008
小規模事業所における健康管理推進要因に関する検討—ソーシャル・キャピタルの観点から—	岡本千明, 荒木田美香子	日本地域看護学会誌	11(2), 46-51	2009
(量的研究・質的研究を組み合わせたもの 2 件)				
青年期から成人期にかけての社会への移行における社会的信頼の効果: シティズンシップの観点から	白井利明, 安達智子, 若松養亮 他	発達心理学研究	20(3), 224-233	2009
中学生における近隣の地域環境の質, 個人レベルの social capital と抑うつ症状との関連	朝倉隆司	日本公衆衛生雑誌	58(9), 754-767	2011

る大規模な研究も9件あった。

研究テーマとしてはSCと健康状態全般の関連について16件(29.6%)、SCと健康の単一指標の関連について(メンタルヘルス、残菌数、血圧等)13件(24.0%)、SCの実態等を調査したもの8件(14.8%)、運動、介護予防等の健康づくりに関するもの4件(7.4%)、住民組織に関するもの4件(7.4%)等があった。

研究手法を量的研究、質的研究に分類した結果、分析対象54件中、量的研究が49件(90.7%)、質的研究が3件(5.6%)、量的研究・質的研究を組み合わせたものの2件(3.7%)であった(表1)。

2. ソーシャル・キャピタルと健康指標に関連性が認められた量的研究

量的研究及び量的・質的を組み合わせた論文51件中、SCと健康指標との関連性を測定した論文は36件であり、統計学上明らかな正の関係性が認められた論文は34件であった。全国からの抽出調査9件(26.5%)、高齢者が9件(26.5%)、市町村単位が7件(20.6%)等であった。

3. SCを測定するための調査項目とSCの構成要素

量的研究及び量的・質的両方を組み合わせた論文51件について、SCを測定するための調査項目を「信頼」「規範」「ネットワーク」の3つの構成要素別に分類した。その際「主観的SC指標」を使用した論文が4件、「近隣効果尺度」を使用した論文が1件見られた。これらの論文は、調査項目が3つの構成要素のいずれに該当するのか文中に触れられておらず分類することは困難と判断し分析不能とした。

分類不能5件を除いた46件について、SCを測定するための調査項目を3つの構成要素別に整理したものが図2である。円が重なりあった部分は構成要素を複数使用していることを指す。「信頼」の構成要素が最

も多く、37件の論文で調査されていた。また、「信頼」「規範」「ネットワーク」を網羅して測定していた論文は22件、「信頼」「規範」の2項目を使用したものが7件、「規範」「ネットワーク」の2項目が7件みられた。ほか「信頼」「規範」「ネットワーク」をそれぞれ単独で使用された論文もみられた。

IV. 考察

国内外で発表されたわが国におけるSCと健康に関する研究動向を複数のデータベースを用いた結果、54文献抽出することできた。2009年以降になってSCと健康に関する研究が隆盛してきたことが示された。Putnamが「哲学する民主主義」(Putnam, 1993/2001)を発表し、SCの概念が注目されてから日本においてSC概念が健康を規定する要因の1つとして公衆衛生分野に取り入れられ、研究成果が発表されるまでに十数年を要したことがうかがわれる。2010年以降も年に11件の論文が発表されており、SCを活用した地域保健施策の推進の必要性が提示されたことから(厚生労働省, 2012)、今後積極的に研究が行われることが予測される。

しかし、調査対象の多くが高齢者や市町村単位の調査に偏っていた。今後は社会的支援を特に必要とする人々や、労働者、若年層等における研究の蓄積が必要と考えられる。

また、日本国内の論文は量的研究が圧倒的であった。木村(2008)や神原(2011)も日本国内のSC研究における質的研究の少なさを指摘している。SCの3つの構成要素である、人々の「信頼」「規範」「ネットワーク」を理解する上では量的な手法では測りきれないその地域ならではの生活背景や価値観を深く理解し、現象から概念を抽出することも重要であると考えられる。今後は量的・質的研究が様々な対象に行われ、成果が公表されることが、SCを的確に測定し評価する上で必要であるといえる。

さらに、SCと健康指標との統計学的な関連性が認められた量的研究34件の結果を概観すると、全国からの抽出調査や市町村単位、高齢者を対象とした調査が比較的多く行われている。研究成果をふまえ、SC醸成のための介入方法等を検討する意義があると考えられる。

しかしながら、SCを測定するための調査項目を構成要素別に整理した結果、多様であることが明らかとなった。未だSCの定義が統一化されておらず、研究者の専門分野や研究目的により、調査項目を設定して

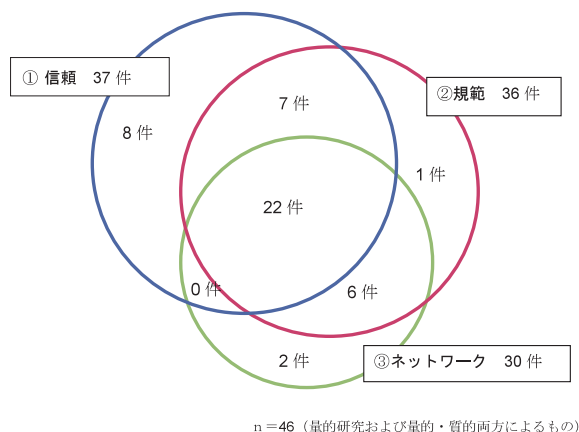


図2 ソーシャルキャピタルを測定するための調査項目の分布 (構成要素別)

いることが推察される。また、調査項目の多様性について木村(2008)や川島(2008)は個人レベル・集団レベルの二つの捉え方による影響があると説明している。Kawachi et al.(2008/2008)は「社会的凝集性として概念化されるべきなのか、ネットワークに埋め込まれたリソースとして概念化されるべきなのか」という点の答えは「両方」であるとし、「双方とも価値あるリソース(キャピタル)が社会的関係の中に、そしてまた、その副産物として存在していることを指し示すことができるという利点を持っている」と述べている。

特に、個人、集団及び社会を対象とし、予防を中心に構成される公衆衛生学的な視点において健康との関連性を明らかにするには、個人・集団レベル両方で捉えることは重要であると考えられる。しかし、多様な構成要素でSCのもたらす効果を捉えていると考えてよいのか検討する必要があると考える。今後は検討をふまえ、様々な対象に測定が可能な尺度が開発され、研究が蓄積されることが求められる。

また、空閑(2010)の文献レビューにおいてわが国ではSCは多くの領域において議論されていることが明らかにされている。今後は地域保健に携わる看護職をはじめとする様々な分野の人々が学際的な視点で協働して研究する必要があると考える。

文献

医学中央雑誌刊行会：医中誌 Web (<http://www.jamas.or.jp/>, 2012.2.15)

稲葉陽二 (2011)：ソーシャル・キャピタル入門，中公新書，東京

井上幸子，平山朝子，金子道子 (1999)：看護学大系 第10巻 看護における研究 第2版，日本看護協会出版会，東京

糸林誉史 (2007)：ソーシャル・キャピタルと新しい公共性，文化女子大学紀要 人文社会科学研究，15，75-85

科学技術振興機構 (2006)：J-Medplus, J-Dream II (<http://pr.jst.go.jp/jdream2/index.html>, 2012.2.15)

神原理 (2011)：ソーシャル・キャピタルの質的調査法，社会関係資本研究論集，(2)，81-100.

Kawachi I., Subramanian S. V., Kim D. (2008) / 藤沢由和，高尾総司，濱野強監訳 (2008)：ソーシャルキャピタルと健康，日本評論社，東京。

川島ゆり子 (2008)：ソーシャル・キャピタル論の社会福祉研究への援助－地域を基盤とする社会福祉実践の展開に向けて－，日本の地域福祉，21，43-57.

木村美也子 (2008)：ソーシャル・キャピタル－公衆衛生学分野への導入と欧米における議論より－，保健医療科学，57 (3)，252-265.

厚生労働省 (2012)：官報 厚生労働省告示第四百六十四号 平成24年7月31日付，号外第165号，13-17.

厚生省，健康・体力づくり事業財団 (2000)：地域における健康日本21実践の手引き，健康・体力づくり事業財団，東京。

空閑陸子 (2010)：ソーシャル・キャピタルに関する先行研究の整理：今日までにおける定義の概要と文献サーベイから見た日本の研究の動向，CUC policy studies review，27，39-49.

儘田徹 (2010)：日本におけるソーシャル・キャピタルと健康の関連に関する研究の現状と今後の展望，愛知県立大学看護学部紀要，16，1-7.

メテオ：文献サービス，メディカルオンライン (<http://mol.medicalonline.jp/index.html>, 2012.2.15)

内閣府国民生活局市民活動促進課 (2002)：ソーシャルキャピタル 豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて，平成14年度内閣府委託調査，1-72.

NCBI：MEDLINE/PubMed Resources Guide，PubMed (<http://www.nlm.nih.gov/bsd/pmresources.html>, 2012.2.15)

尾島俊之 (2011)：ソーシャルキャピタルと地域保健 アセット・モデルとニーズ・モデルを含めて，保健師ジャーナル，67 (2)，96-100

岡正寛子，田口豊郁 (2012)：子どもの発達に焦点をあてた地域の役割－子どもの認識するソーシャルキャピタルの測定から－，川崎医療福祉学会誌，21 (2)，184-194.

Putnam R.D. (1993) / 河田潤一訳 (2001)：Making democracy work 哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造，NTT出版，東京。